

野坂山いこいの森付近における鳥類調査と季節の変化

中林 喜悦*

A bird study and seasonal variation of birds around the Nosakayama – Ichoinomori, Fukui Prefecture
Kietsu NAKABAYASHI*

(要旨) 福井県敦賀市野坂山山麓の探鳥コースにて、2007～2008年にかけて、鳥類生息調査を実施した。その結果、留鳥28種、夏鳥11種、冬鳥5種、ハタオリ1種、県域準絶滅危惧1種、計46種が確認できた。

キーワード：野坂山、鳥類調査、福井県

1 はじめに

福井県は本州中部の日本海側にあつて西を海洋として、東を山地に囲まれ、桁の木峠を境に北の嶺北地方と南の嶺南地方に大きく分かれる。嶺北地方は坂井平野一帯から大野盆地とその周辺、奥越地区および武生地区一帯の丹南地区などに分けられる。一方の嶺南地方は、北部に若狭湾、南部に野坂山地、丹波高地が迫る平地の少ない地形をしている。また、嶺北地方には、岐阜県境の旧和泉村から大野市、勝山市、永平寺町および坂井平野を流れて三国町に至る九頭竜川と、嶺南地方には、京都府県境に源を發し若狭町、おおい町、小浜市などを抜ける北川と南川が流れている。

福井県は昔から眞宗王国と言われ、無益な殺生を禁ずる土地柄であり、そのことが動植物の保護思想に一つの影響を与えていて、小規模ながら優れた自然環境を他の地域より多く保有している。しかし狭い国土である故に、その自然環境が、人口増や生活様式の変化により、好むと好まざるにかかわらず失われていることも事実である。ここで我々は何を残し何を護るべきかという課題と向き合わざるを得なくなってきた。現在では環境問題への関心も高まり、自然の保護に異議を唱える者は無くなっている。しかし実際に環境の改善や野生動物による被害問題が起きると、人間が先か動物が先かと理論が先行きみである。これでは開発や駆除と保全・保護との調和をどんな形で整えてゆくか、自然との共存のための具体的な方法を求める必要がでてくる。

福井県には鳥類学や哺乳類学の研究している大学や機関はないが、日本野鳥の会福井県支部をはじめ、いくつものアマチュアの研究があり、長年に亘つて鳥類や哺乳類の観察が継続されてきており、また本県の鳥

類相を明らかにする上で1973年から定期的に織田町にある環境庁鳥類観測ステーションでは山階鳥類研究所や本県の調査員によって野鳥の渡りのコース、標識調査の果たしてきた役割は大きく、種数、個体数はそれぞれ80種、約75,000羽になり、四半世紀に亘つて蓄積されたデータは鳥類上も貴重な知見を残している。

2 調査方法と結果

日本野鳥の会本部の自然保護室より野坂岳山麓、敦賀市少年自然の家より野坂山登山入口を少々昇り海拔210mの所にある、野鳥広場の中の探鳥コース(1,522m、東経136度1'49.5"北緯35度36'21")を調査地点とし鳥類密度、変化を調べた(図1, 2; 写真1～6)。調査方式は本部の企画されている森林調査マニュアルに準じた(図3)。

筆者の調査範囲と期間は、越冬期(2007年12月下旬～2008年2月下旬)繁殖期(2008年5～6月)で、調査時刻は、越冬期は8時～11時、繁殖期は4時～8時とした。また、冬鳥・夏鳥・留鳥を区分した。その結果は、7目、留鳥28、夏鳥11、冬鳥5、ハタオリ1、県域準絶滅危惧1、計46種となった(表1)。

夏鳥では、ツツドリ、サンショウクイ、ホトトギス、キビタキ、クロツグミ、オオルリが、そして、冬鳥では、ツグミ、ジョウビタキ、シロハラ、アオジ、ウソなどが観察された。また、留鳥や標鳥では、モズ、シジュウガラ、セグロセキレイ、ウグイス、カケス、ミソサザイ、ヤマドリなどが観察された。

野坂山(913.5m)は古くから山岳宗教の山として多くの信者が登った歴史を持っていて、気軽に親しむのであれば、「野坂いこいの森」を散策するのがおすすめだし、少し頑張つてお山に登られるのもよいでし

*〒918-8046 福井市運動公園1-4210

*1-4210 Undokoen, Fukui City, Fukui 918-8046, Japan

よう。少年自然の家付近では温帯性と暖帯性の植物が見られ（図2）、標高の高いところでは、ブナ林が見られるなど植生が変化に富んでいて、格好の野鳥の生息地になって森林性の鳥などに親しめますが、広い地域なので、ゆっくりと何回も出かけることをおすすめしたい。できれば次回は野鳥観察する時は定期的に継続した企画を立て、渡り鳥の中継地として利用できる知識を高めていくことが重要です。

最後に日本野鳥の会福井県支部の方々はじめ、福井市自然史博物館の担当者の方ご人力を賜り感謝すると共に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 第55回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい記念誌編集委員会、2001、鳥たちの四季。福井県、182p。
日本野鳥の会、2000、日本鳥類目録2000改訂第6版、山と溪谷社。
福井県、1999、福井県のすぐれた自然 鳥類と哺乳類編、福井県、131p。
福井県、2002、福井県レッドデータブック（動物編）福井県の絶滅のおそれのある野生動物。福井県、243p。



写真1：C点。野坂岳登山口。



写真2：C点から野鳥観察ハウスから野鳥採鳥広場を見る。



写真3：ハウスからD点に登って野坂岳登山口から15～20分ころ。



写真4：A点。



写真5：A～B。森林コース。



写真6：B点。間もなく登山口へ帰ってきた所。

野坂山いこいの森付近における鳥類調査と季節の変化

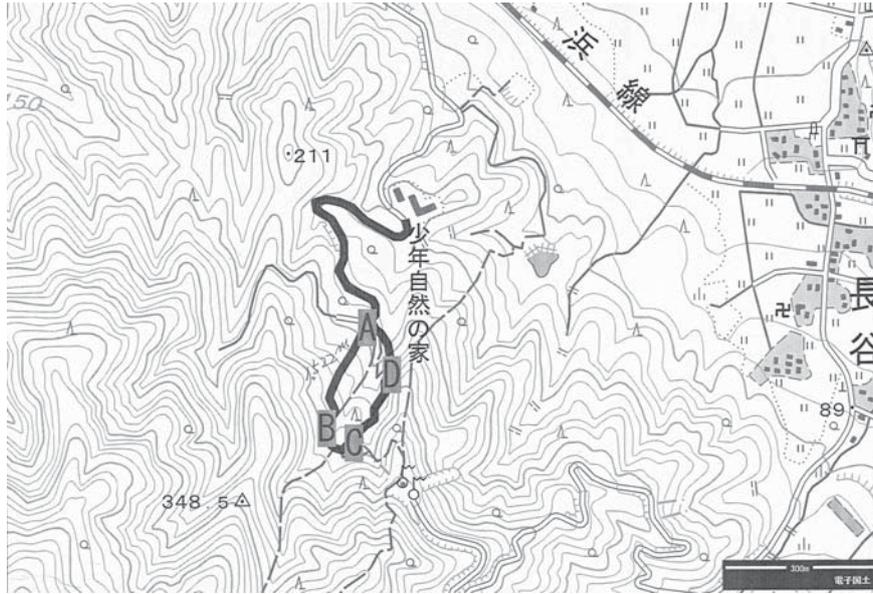


図1：調査地のコース

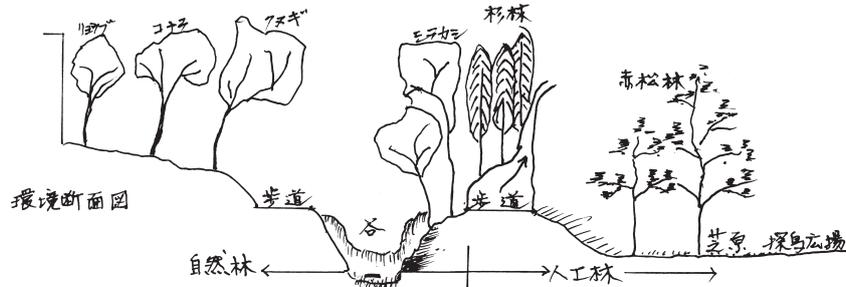


図2：野坂山，調査コースの森林模式図（図の手前が北になる）

鳥類生息調査野帳									
片側25mのラインセンスで行なう。ただし、範囲外に居た場合も（種名）で記録する。									
メッシュ番号		調査地名							
調査日 199 年 月 日		調査者							
天候		調査時間 : ~ :							
No	種名	V	S	C	F	計	環境	繁殖	備考(時間等)
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									

※ 確認方法 V:視認 S:さえずり C:地鳴き F:飛行 8:群集鳴 9:群集
 ※「環境」は数字で記入 1:自然林 2:人工林 3:草原 4:海岸 5:湖沼 6:河川 7:市街地
 ※「繁殖」は記号で記入 P:ペア行動 D:ディスプレイ N:営巣(造巣, 抱卵, 給餌) J:幼鳥

哺乳類生息調査野帳									
No	種名	V	S	C	F	計	環境	繁殖	備考(写真番号等)
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
その他									

※フォーマットは記号で記入 T:足跡 F:食痕 S:糞 8:群集鳴 9:群集
 ※「環境」は数字で記入 1:自然林 2:人工林 3:草原 4:海岸 5:湖沼 6:河川 7:市街地
 ※「繁殖」は 〇 で記入

図3：野鳥調査野帳

※確認方法 V:視認 S:さえずり C:地鳴き FL:飛行
 ※「環境」は数字で記入 1:自然林 2:人工林 3:草原 4:海岸 5:湖沼 6:河川 7:市街地
 ※「繁殖」は記号で記入 P:ペア行動 D:ディスプレイ N:営巣(造巣, 抱卵, 給餌) J:幼鳥

表1：野坂山いこいの森付近で確認した鳥類とその個体数

NO	種名	目名	科名	区分	学名	越冬期	繁殖期
1	アオサギ	コウノトリ	サギ	留鳥	<i>Ardea cinerea</i>	5	6
2	トビ	タカ	タカ	留鳥	<i>Milvus migrans</i>	6	8
3	サシバ	タカ	タカ	危惧	<i>Butastur indicus</i>	1	0
4	ヤマドリ	キジ	キジ	留鳥	<i>Phasianus soemmerringii</i>	2	1
5	キジ	キジ	キジ	留鳥	<i>Phasianus versicolor</i>	2	7
6	キジバト	ハト	ハト	留鳥	<i>Streptopelia orientalis</i>	1	3
7	ジュウイチ	カッコウ	カッコウ	夏鳥	<i>Cuculus fugax</i>	0	2
8	カッコウ	カッコウ	カッコウ	夏鳥	<i>Cuculus canorus</i>	0	2
9	ツツドリ	カッコウ	カッコウ	夏鳥	<i>Cuculus saturatus</i>	0	3
10	ホトトギス	カッコウ	カッコウ	夏鳥	<i>Cuculus poliocephalus</i>	0	1
11	アオゲラ	キツツキ	キツツキ	留鳥	<i>Picus awokera</i>	2	2
12	アカゲラ	キツツキ	キツツキ	留鳥	<i>Dendrocopos major</i>	1	2
13	コゲラ	キツツキ	キツツキ	留鳥	<i>Dendrocopos kizuki</i>	3	4
14	ツバメ	スズメ	ツバメ	夏鳥	<i>Hirundo rustica</i>	0	1
15	キセキレイ	スズメ	セキレイ	留鳥	<i>Motacilla cinerea</i>	1	1
16	ハクセキレイ	スズメ	セキレイ	留鳥	<i>Motacilla alba lugens</i>	1	2
17	セグロセキレイ	スズメ	セキレイ	留鳥	<i>Motacilla grandis</i>	1	1
18	サンショウクイ	スズメ	サンショウクイ	夏鳥	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	0	1
19	ヒヨドリ	スズメ	ヒヨドリ	留鳥	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	10	15
20	モズ	スズメ	モズ	留鳥	<i>Lanius bucephalus</i>	2	0
21	ミソサザイ	スズメ	ミソサザイ	留鳥	<i>Troglodytes troglodytes</i>	1	1
22	コルリ	スズメ	ツグミ	夏鳥	<i>Erithacus cyane</i>	0	1
23	ウグイス	スズメ	ウグイス	留鳥	<i>Cettia diphone</i>	5	10
24	キビタキ	スズメ	ヒタキ	夏鳥	<i>Ficedula narcissina</i>	0	1
25	オオルリ	スズメ	ヒタキ	夏鳥	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	0	1
26	サンコウチョウ	スズメ	ヒタキ	夏鳥	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	0	1
27	エナガ	スズメ	エナガ	留鳥	<i>Aegithalos caudatus</i>	7	10
28	ヒガラ	スズメ	シジュウガラ	留鳥	<i>Parus ater</i>	1	1
29	シジュウカラ	スズメ	シジュウガラ	留鳥	<i>Parus major</i>	6	11
30	ヤマガラ	スズメ	シジュウガラ	留鳥	<i>Parus varius</i>	3	5
31	メジロ	スズメ	メジロ	留鳥	<i>Zosterops japonica</i>	2	3
32	ホオジロ	スズメ	ホオジロ	留鳥	<i>Emberiza cioides</i>	0	18
33	アオジ	スズメ	ホオジロ	冬鳥	<i>Emberiza spodocephala</i>	1	0
34	カワラヒワ	スズメ	アトリ	留鳥	<i>Carduelis sinica</i>	3	3
35	イカル	スズメ	アトリ	留鳥	<i>Eophona personata</i>	1	2
36	スズメ	スズメ	ハタオリ	留鳥	<i>Passer montanus</i>	3	15
37	カケス	スズメ	カラス	留鳥	<i>Garrulus glandarius</i>	1	2
38	ハシボソガラス	スズメ	カラス	留鳥	<i>Corvus corone</i>	6	6
39	ハシブトガラス	スズメ	カラス	留鳥	<i>Corvus macrorhynchos</i>	5	4
40	ムクドリ	スズメ	ムクドリ	留鳥	<i>Sturnus cineraceus</i>	3	2
41	ジョウビタキ	スズメ	ツグミ	冬鳥	<i>Phoenicurus auroreus</i>	2	0
42	ツグミ	スズメ	ツグミ	冬鳥	<i>Turdus naumanni</i>	3	0
43	ウソ	スズメ	アトリ	冬鳥	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	1	0
44	シロハラ	スズメ	ツグミ	冬鳥	<i>Turdus pallidus</i>	1	0
45	クロツグミ	スズメ	ツグミ	夏鳥	<i>Turdus cardis</i>	0	1
46	ゴジュウカラ	スズメ	ゴジュウガラ	留鳥	<i>Sitta europaea</i>	2	0